




デジタル田園都市国家構想を踏まえた 柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

- ・ 経緯
- ・ デジタル田園都市国家構想総合戦略の概要
- ・ 第2期柏原まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について



デジタル田園都市国家構想を踏まえた 柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

- ・ 経緯
- ・ デジタル田園都市国家構想総合戦略の概要
- ・ 第2期柏原まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

デジタル田園都市国家構想の実現に向けた柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

■これまでの経緯

・2014年5月 日本創生会議が「消滅可能性都市」公表

東京一極集中の流れに歯止めがかからず推移した場合、若年（20～39歳）女性人口が2040年に5割以上減少する市町村は全国1,799のうち896にのぼり、「多くの市町村は将来消滅するおそれがある」と試算

・2014年11月～12月 まち・ひと・しごと創生法施行

出生率の低下によって引き起こされる人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的とする。

「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」
「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定

・2019年12月 「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）」及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を決定

【主な取組の方向性】

- ・東京一極集中の是正に向けた取組の強化
- ①地方への移住・定着の促進、②地方とのつながりを強化（関係人口の創出・拡大等）
- ・まち・ひと・しごと創生の横断的な目標に基づく施策の推進
- ①多様な人材の活躍を推進する、②新しい時代の流れを力にする（地域におけるSociety 5.0の推進）

・2020年12月 第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2020改訂版）を決定

【新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の地方創生の取組の方向性】

- ・感染症による意識・行動変容を踏まえた地方へのひと・しごとの流れの創出
- ・テレワークの普及と地方への関心の高まり、地方へのひとの流れ、企業の意識・行動変容
- ・各地域の特色を踏まえた自主的・主体的な取組の促進

第1期

○2016年3月「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び「柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定

柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本方針	基本目標	基本目標（国）
ひとの創生	子育て環境ナンバーワンのまち かしわら	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
しごとの創生	働きやすいまち かしわら	地方への新しいひとの流れをつくる
まちの創生	住んでみたい、住み続けたいまち かしわら	地方における安定した雇用を創出する
	暮らしやすいまち かしわら	時代にあった地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

○2021年3月 第2期「柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定

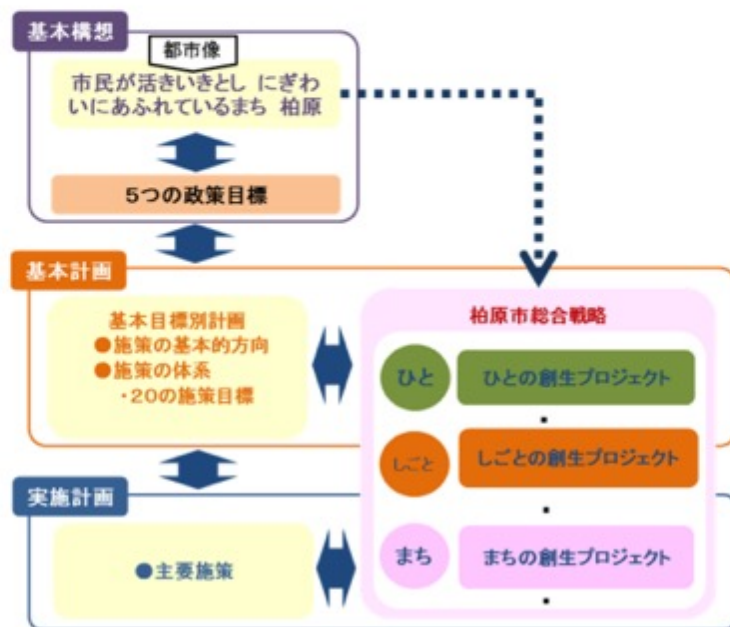


第2期

1-2 総合戦略の位置づけ

総合戦略は、本市における人口の現状と将来の展望を提示する「人口ビジョン」における目標人口と将来の姿を見据え、その実現に向けた今後5年間の方策を示すものとなります。

また、総合戦略は、「第4次柏原市総合計画」の後期計画との整合を図り、5つの政策目標の実現に向けて横断して取り組む、リーディングプロジェクトとして位置づけます。



選ばれるまち柏原

～豊かな自然 伝統ある産業 歴史・文化、教育みんな笑顔で住みよい 柏笑～

まちの将来像

■将来の方向性

- 出生率の向上と市外への転出抑制により人口減少に歯止めをかけ、人口規模の安定と人口の構造の改善を図ります。
- 地域の外から稼ぐ力を高めるとともに、地域内経済循環を図ります。
- 関係人口創出の取組により、まちづくりの担い手不足の改善を図ります。

■基本視点

- ①結婚、子育て、教育など子育て世代の支援
- ②若者を中心とした生産年齢人口の流出抑制
- ③地域資源を活用した地域活性化

基本方針

「親世代」から「子ども世代」、「孫世代」へとつなぐ、 三世代がよりそう まちづくり

～三世代の絆や家族の大切さを深め、柏原市に生まれて良かった、住み続けたいと思える暮らしを実現～

基本目標

基本目標 1

子育て環境ナンバーワンのまち かしわら

基本目標 2

働きやすいまち かしわら

基本目標 3

住んでみたい、住み続けたいまち かしわら

基本目標 4

暮らしやすいまち かしわら

■第1期総合戦略の検証

基本目標の達成状況

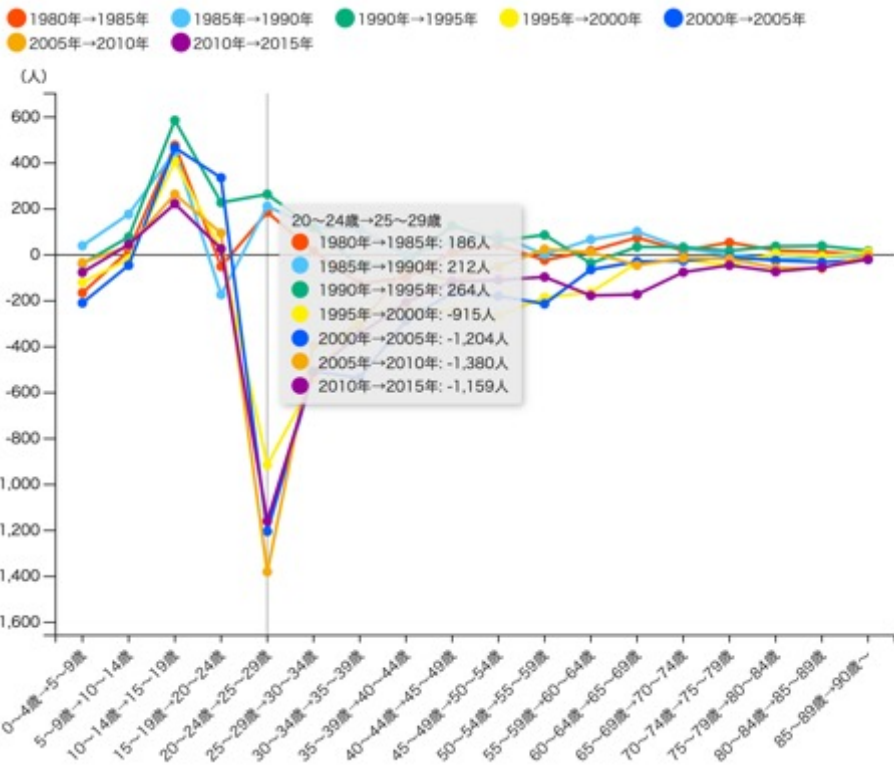
・第1期では、基本方針に基づく3つの戦略の柱を位置づけ、4つの基本目標を設定。各目標に掲げた数値目標の達成状況は以下のとおり。

基本目標	指標（基準値）	数値目標	現在値
①子育て環境ナンバーワンのまち かしわら	子育て支援の満足度（3.24）	3.66	3.41
	教育指導の満足度（2.95）	3.53	2.98
②働きやすいまち かしわら	若者の市内雇用者数の割合（28.2%）	33.1%	29.1%
③住んでみたい、住み続けたいまち かしわら	「住み続けたい」と答える人の割合（66.6%）	81.7%	84%
	市内への転入者（2,163人）	2,260人	2,267人
	市外への転出者（2,534人）	2,407人	2,556人
④暮らしやすいまち かしわら	「住みやすい（暮らしやすい）」と答える人の割合（27.7%）	37.7%	28%
	健康づくりにおける満足度（3.51）	3.72	3.53

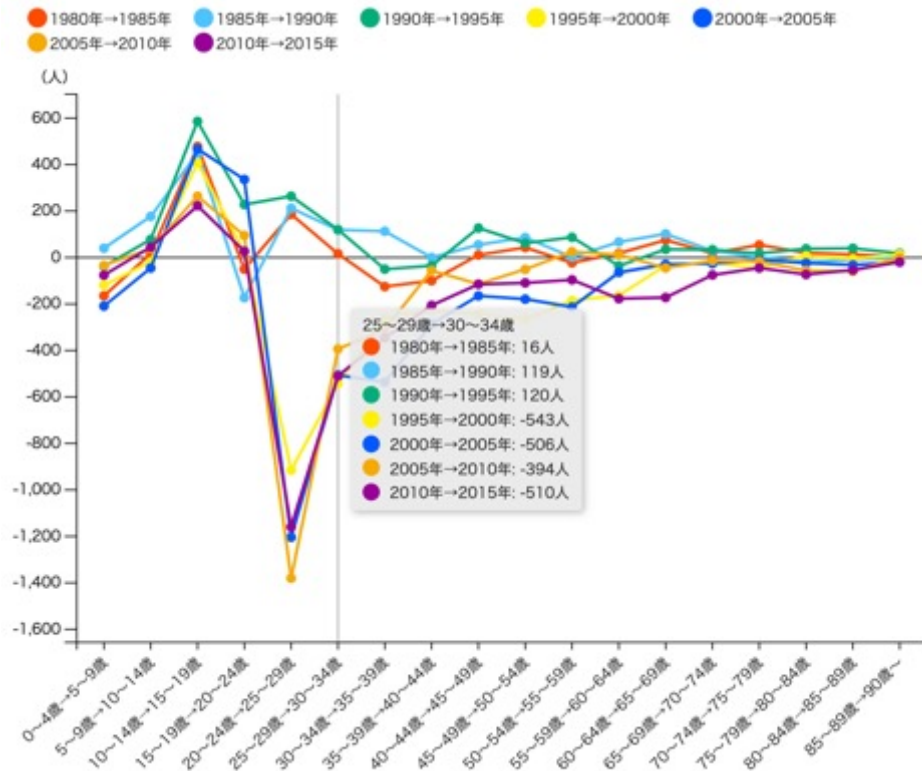
・2つの目標の達成に加え、ほとんどの項目で、基準値（戦略策定時）より改善されたが、**市外への転出者**の項目のみ、基準値より数値が悪化した。

柏原市の年代別転出入状況

(20～24歳→25～29歳)



(25～29歳→30～34歳)

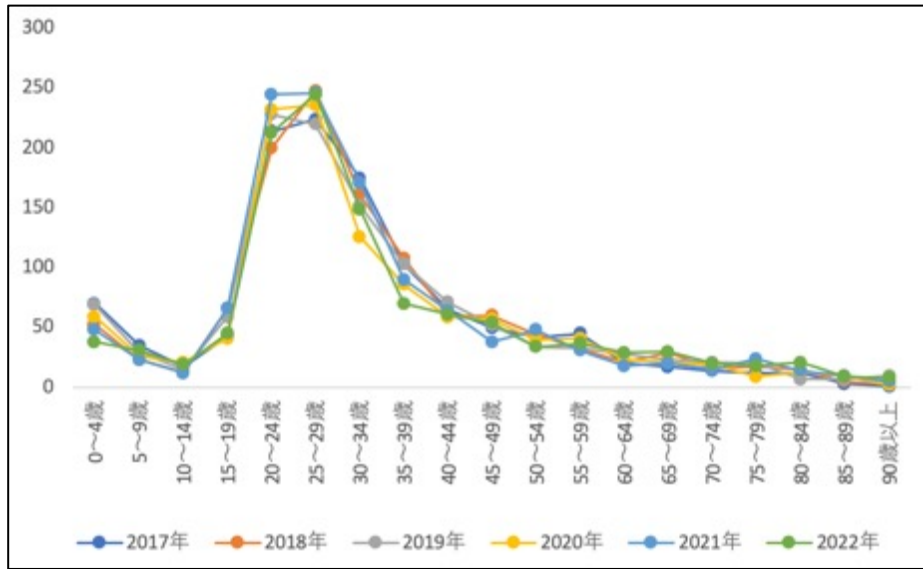


・2010年→2015年にかけて20～24歳→25～29歳・25～29歳→30～34歳の転出超過が多い。

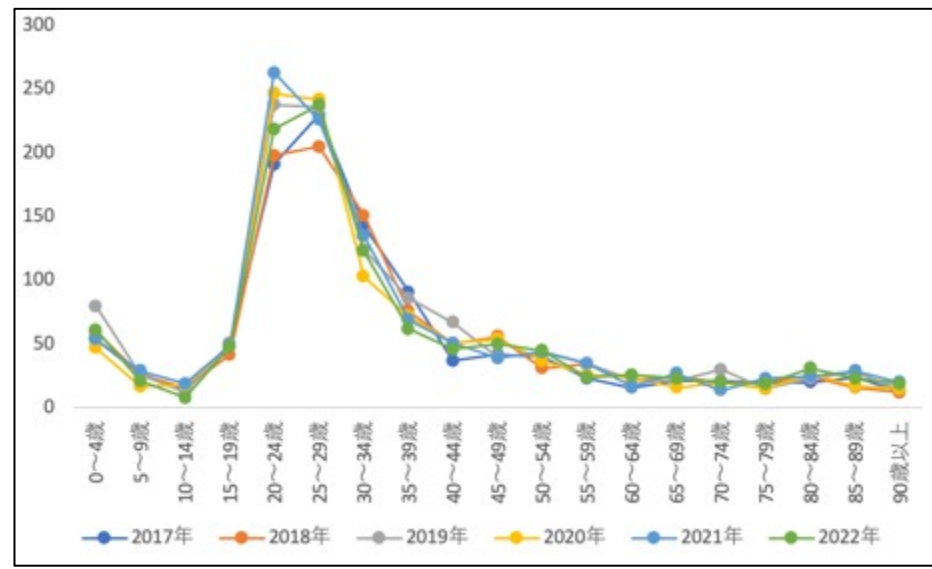
【出典】

総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

性別・年齢階級別の転出者移動



男性



女性

【交流人口】

・ほとんど関わりがない者

【ステークホルダー】

- ・国土交通省大和川河川事務所
- ・大阪府 ・公益財団法人 大阪観光局
- ・奈良県 香芝市 王寺町 三郷町

観光施策

シティプロモーション

弱

【関係人口】

- ・地域内にルーツがある者（近居・遠距）
- ・何らかの関わりがある者（過去の勤務や居住など）

【ステークホルダー】

- ・ふるさと納税寄付者
- ・在勤者
- ・コワーキングスペース運営者

ふるさと納税

ワーケーションの取組

地域との関わり
地域への想い

【定住人口】

・現に柏原市に居住している者

【ステークホルダー】

- ・大学生（市内在住） ⇒ 転出を抑制する取組
- ・大学生（市外在住） ⇒ 定住（市内に転居）してもらう取組

シビックプライドの醸成

大学との連携強化

強

日本遺産PR商品「亀の甲羅（コーラ）」



日本遺産ブランド認定お土産品」



亀の瀬トンネル プロジェクションマッピング





【市内撮影場所】①国分合同会館②岡田染工場

出演者：アイナ・ジ・エンド、松村北斗、黒木華／広瀬すず
原作・脚本・監督：岩井俊二「キリエのうた」(文春文庫刊)
音楽：小林武史
主題歌：「キリエ・慎れみの讃歌」Kyrie (avex trax)
配給：東映 制作：ロックウェルアイズ
© 2023 Kyrie Film Band

柏原市がロケ地の1つとなった 映画『キリエのうた』が公開中です！

市では、映画・ドラマなどのロケ撮影の支援を行っており、柏原市がロケ地となった『キリエのうた』が全国上映中です。本作品では国分合同会館、岡田染工場などで撮影が行われました。どんな場面で登場するのか、ぜひ劇場でご覧ください。

問合せ にぎわい観光課 ☎072・940・6165

近畿初！※

河川空間のオープン化 11月1日正式決定

※国土交通省近畿地方整備局管内の直轄管理河川で初



河川空間のオープン化とは？

原則、地方公共団体などにのみ認められている占有を、一定の要件を満たす場合に、営業活動を行う事業者などによる利用も可能とする制度。

市では、令和3年以降、市役所前の大和川の河川区域で社会実験イベントを計16回開催して約5万人の集客をするなど、地域のにぎわいづくりに取り組んできました。そしてこの度、大和川の河川管理者である近畿地方整備局が、河川敷地占用許可準則に基づく「都市・地域再生等利用区域」の指定（河川空間のオープン化）を、11月1日付けで行いました。

これにより、大和川河川敷内で民間事業者による収益事業（バーベキューやカヌー、SUPなど）が行えるようになり、大和川河川敷を幅広く活用することができるようになりました。

問合せ 企画調整課 ☎ 072-971-1000

【社会実験（一部紹介）】

名称：ロハスパーク大阪柏原

開催日程：令和4年5月21日、22日 令和4年9月10日、11日 令和5年4月15日、16日 令和5年9月30日、10月1日

関係（協力）団体：ロハスパーク大阪柏原実行委員会、柏原市マイクロツーリズム推進協議会、国土交通省大和川河川事務所、大阪府、大阪教育大学

■当日の様子

会場全体写真



水鉄砲サバイバルゲーム



水上アクティビティ



来場した子供達の様子



■概要・経過等

- ・クラフト雑貨やキッチンカーによる飲食販売を中心に開催されているロハスパークを誘致。
- ・柏原市の色を出すため、水上アクティビティを当該イベントのコンテンツとして提供。
- ・市及び教育委員会が後援していることから、告知協力として、市内の幼稚園、保育所、小・中学校全生徒向けにチラシを配布。
- ・新型コロナウイルス感染症による影響で様々なイベントが中止されてきたため、河川敷における久しぶりの開催かつ100店舗を超える出展者が集まる大規模のイベントであったことから両日ともに多くの方に来場していただいた。
- ・水上アクティビティ、飲食販売の多くで、売り切れが続出するなど出展者の収益性が高いことが確認できた。また主催者も収益性が高いことから出展者を確保しやすいため、5月の開催後すぐに次回開催が決定した。
- ・2回目の開催では、約130店舗の出展者が集まり、より大規模になった。また、夏場の開催ということを活かすべく水鉄砲サバイバルゲームを実施。（企画提案、運営は大阪教育大学の学生が中心）
- ・良い成果が多く見られた一方、日除けが少なく熱中症の方が出たことや、警察からは渋滞への対応が求められた。（※渋滞に関しては、イベント開催に関わらず週末は市役所前での渋滞が見られるため、必ずしも当該イベントが原因かは不明。）

【社会実験（一部紹介）】

名称：チアファミリーフェスタ

開催日程：令和5年3月19日

関係（協力）団体：柏原市マイクロツーリズム推進協議会、キッチンカーマルシェ協会、カンカラカン・・・他

■当日の様子

ステージプログラム



会場の様子



キッズバイク試乗体験



花火（フィナーレ）



■概要・経過等

- ・市内事業者が主催者として実施した初めての社会実験
- ・ステージプログラムの実施により、来場者の滞在時間が長くできたことから、出展者（物販、キッチンカー）の売上が好調であった。
- ・会場警備について、来場者用の駐車場、駐輪場、河川敷堤防沿い、花火実施時の河川敷（対岸含む）など相当数を配置する必要があったが、ボランティアの協力もあり大きなトラブルはなかった。
- ・花火の実施は、警察・消防からの指導が厳しいため、草刈り等の会場整備、当日の警備など、事前の準備に相当の期間と労力が必要。
- ・モニター付き車両をステージ横に配置したことで、出展者のブース紹介やステージプログラムの案内など効果的であった。
- ・アルコール飲料の提供を行ったが、トイレ不足の問題はなかった。
- ・イベント運営を生業とする事業者がいない状況でも無事成功することができたため、当該イベントをモデルケースに他の市内事業者等でイベント意向のある事業者に横展開することで市内事業者の活性化に繋げていきたい。

5-2 目指すべき将来像

総合戦略における目指すべき将来像は、「第5次柏原市総合計画」の基本構想に定める「2030年 まちの将来像」とします。

2030年 まちの将来像

選ばれるまち柏原

～ 豊かな自然 伝統ある産業 歴史・文化、教育

みんな笑顔で住みよい かしわら 柏笑 ～



デジタル田園都市国家構想を踏まえた 柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

- ・ 経緯
- ・ **デジタル田園都市国家構想総合戦略の概要**
- ・ 第2期柏原まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

デジタル田園都市国家構想総合戦略の全体像



総合戦略の基本的考え方

- ▶ テレワークの普及や地方移住への関心の高まりなど、**社会情勢がこれまでとは大きく変化している中、今こそデジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。**
- ▶ **東京圏への過度な一極集中の是正や多極化を図り、地方に住み働きながら、都会に匹敵する情報やサービスを利用できるようにすることで、地方の社会課題を成長の原動力とし、地方から全国へとボトムアップの成長につなげていく。**
- ▶ **デジタル技術の活用は、その実証の段階から実装の段階に着実に移行しつつあり、デジタル実装に向けた各府省庁の施策の推進に加え、デジタル田園都市国家構想交付金の活用等により、各地域の優良事例の横展開を加速化。**
- ▶ **これまでの地方創生の取組も、全国で取り組まれてきた中で蓄積された成果や知見に基づき、改善を加えながら推進していくことが重要。**

＜総合戦略のポイント＞

- まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂し、**2023年度から2027年度までの5か年の新たな総合戦略**を策定。デジタル田園都市国家構想基本方針で定めた取組の方向性に沿って、**各府省庁の施策の充実・具体化**を図るとともに、**KPIとロードマップ（工程表）**を位置付け。
- 地方は、地域それぞれが抱える社会課題等を踏まえ、**地域の個性や魅力を生かした地域ビジョンを再構築し、地方版総合戦略を改訂。地域ビジョン実現に向け、国は政府一丸となって総合的・効果的に支援する観点から、必要な施策間の連携をこれまで以上に強化**するとともに、同様の社会課題を抱える複数の地方公共団体が連携して、**効果的かつ効率的に課題解決に取り組むことができるよう、デジタルの力も活用した地域間連携の在り方や推進策を提示。**

施策の方向

デジタルの力を活用した地方の社会課題解決

デジタルの力を活用して地方の社会課題解決に向けた取組を加速化・深化

- 1 地方に仕事をつくる**
スタートアップ・エコシステムの確立、中小・中堅企業DX（キャッシュレス決済、シェアリングエコノミー等）、スマート農林水産業・食品産業、観光DX、地方大学を核としたイノベーション創出 等
- 2 人の流れをつくる**
「転職なき移住」の推進、オンライン関係人口の創出・拡大、二地域居住等の推進、地方大学・高校の魅力向上、女性や若者に選ばれる地域づくり 等
- 3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる**
結婚・出産・子育ての支援、仕事と子育ての両立など子育てしやすい環境づくり、こども政策におけるDX等のデジタル技術を活用した地域の様々な取組の推進 等
- 4 魅力的な地域をつくる**
教育DX、医療・介護分野DX、地域交通・インフラ・物流DX、まちづくり、文化・スポーツ、防災・減災、国土強靱化の強化等、地域コミュニティ機能の維持・強化等



地方のデジタル実装を下支え

デジタル実装の基礎条件整備

デジタル実装の前提となる取組を国が強力に推進


- 1 デジタル基盤の整備**
デジタルインフラの整備、マイナンバーカードの普及促進・利活用拡大、データ連携基盤の構築（デジタル社会実装基盤全国総合整備計画の策定等）、ICTの活用による持続可能性と利便性の高い公共交通ネットワークの整備、エネルギーインフラのデジタル化 等
- 2 デジタル人材の育成・確保**
デジタル人材育成プラットフォームの構築、職業訓練のデジタル分野の重点化、高等教育機関等におけるデジタル人材の育成、デジタル人材の地域への還流促進、女性デジタル人材の育成・確保 等
- 3 誰一人取り残されないための取組**
デジタル推進委員の展開、デジタル共生社会の実現、経済的事情等に基づくデジタルデバイドの是正、利用者視点でのサービスデザイン体制の確立 等



■改訂のポイント

- まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂し、**2023年度から2027年度までの5か年の新たな総合戦略**を策定。
デジタル田園都市国家構想基本方針で定めた取組の方向性に沿って、**各府省庁の施策の充実・具体化**を図るとともに、**KPIとロードマップ（工程表）**を位置付け。

- 地方は、地域それぞれが抱える社会課題等を踏まえ、**地域の個性や魅力を生かした地域ビジョンを再構築し、地方版総合戦略を改訂。地域ビジョン実現に向け、**
国は政府一丸となって総合的・効果的に支援する観点から、**必要な施策間の連携をこれまで以上に強化**する。
同様の社会課題を抱える複数の地方公共団体が連携して、効果的かつ効率的に課題解決に取り組むことができるよう、**デジタルの力も活用した地域間連携の在り方や推進策を提示。**



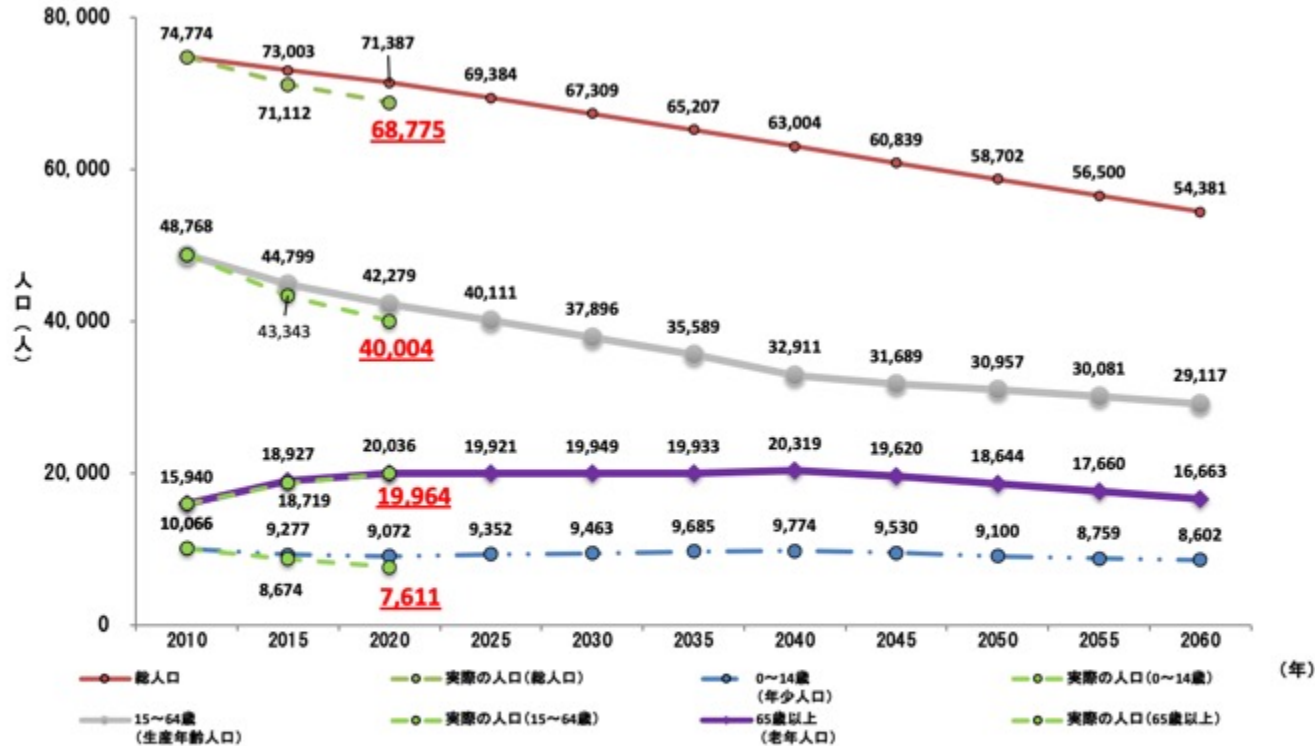
デジタル田園都市国家構想を踏まえた 柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

- ・ 経緯
- ・ デジタル田園都市国家構想総合戦略の概要
- ・ **第2期柏原まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について**



地域ビジョン（地域が目指すべき理想像）

- ・地域の個性や魅力を生かした地域ビジョンを再構築



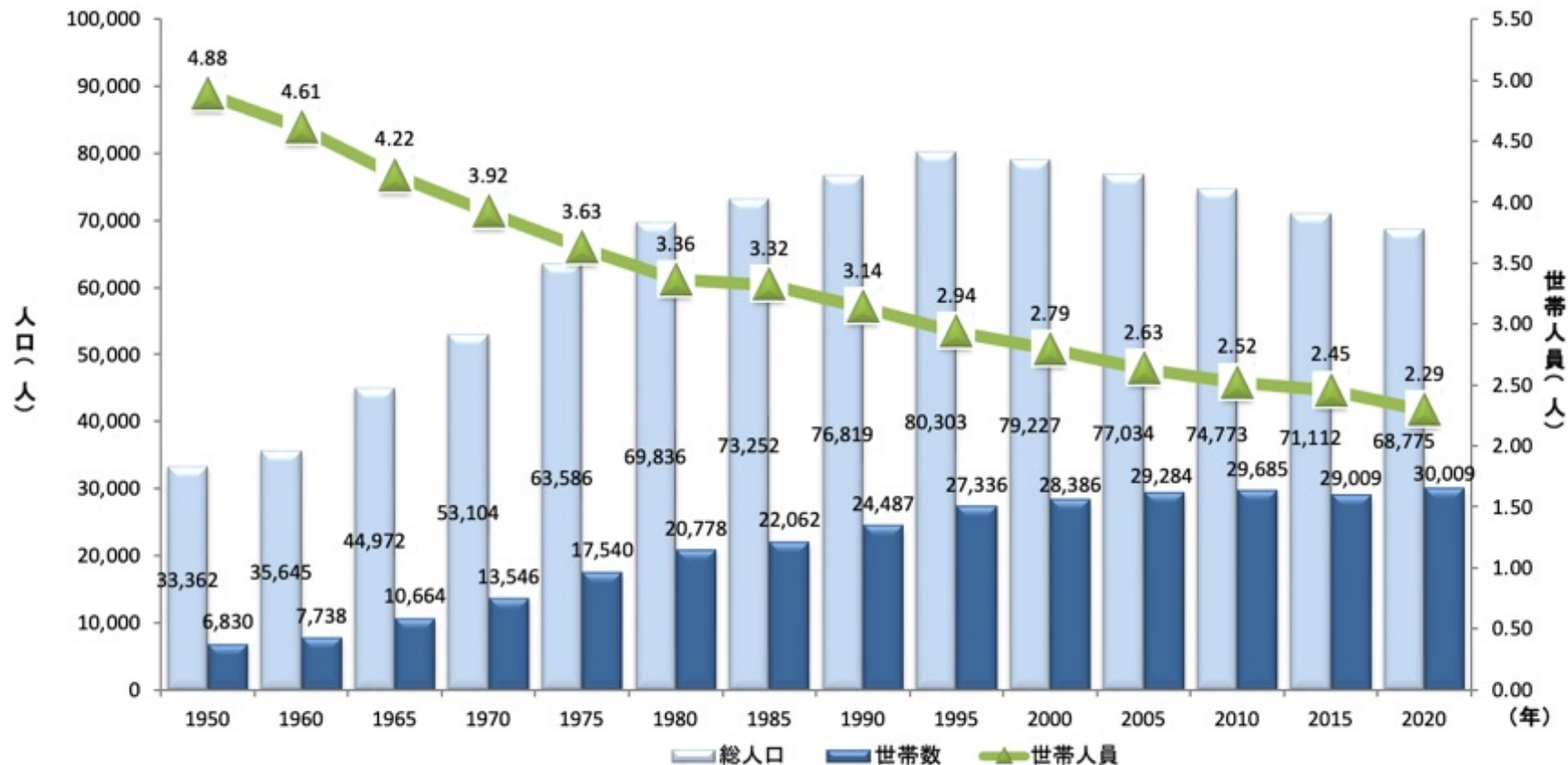
※参考 直近の人口(令和5年11月末現)

区分	人	率(%)
0~14歳	7,124	10.65
15~64歳	39,660	59.28
65歳以上	20,116	30.07

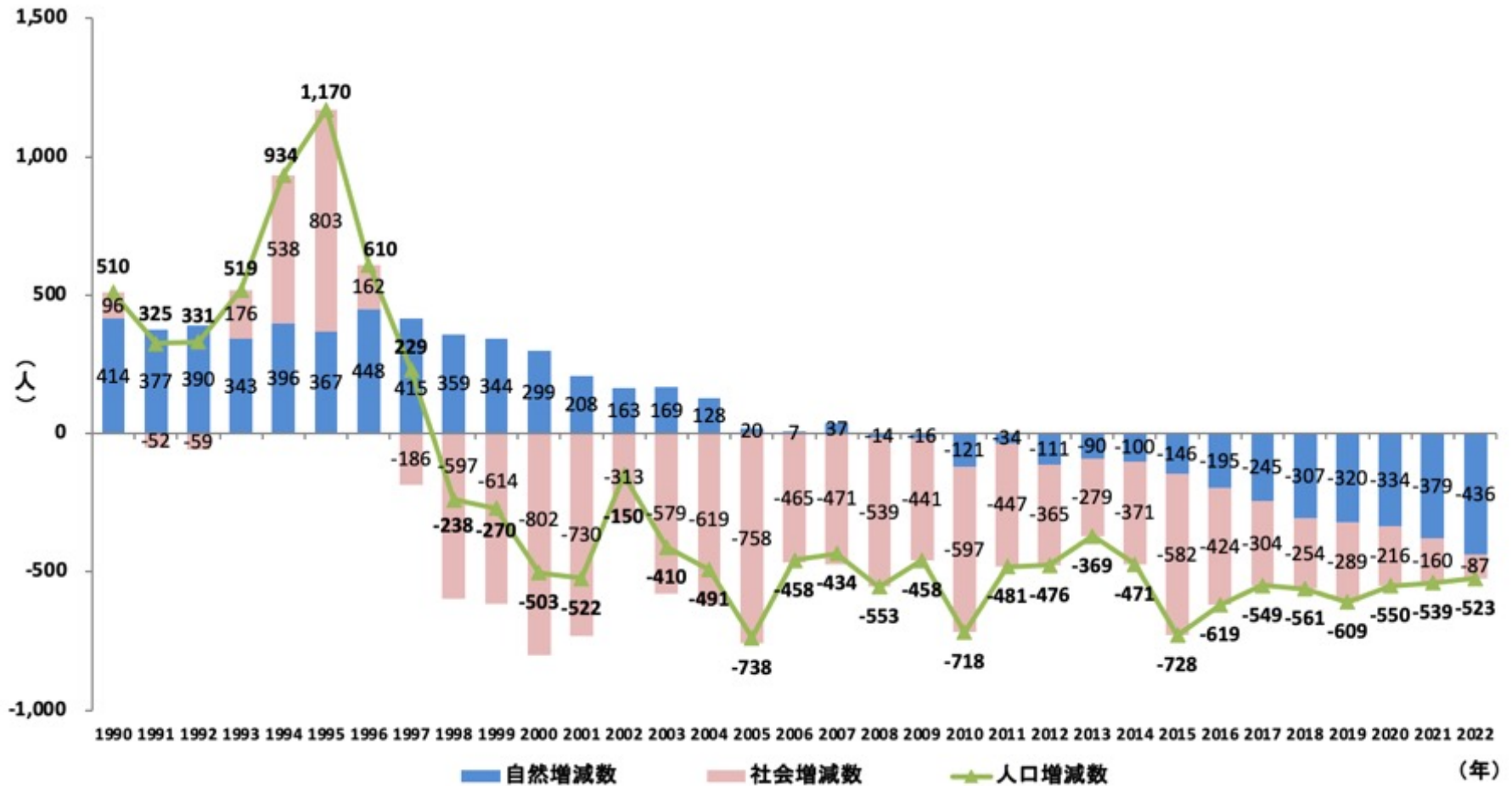
図-3 推計人口の比較

総人口、年少人口、生産年齢人口、老年人口：人口の将来展望とした人口推計の推移(目標人口54,381人)
 実際の人口：2010年、2015年、2020年 国勢調査

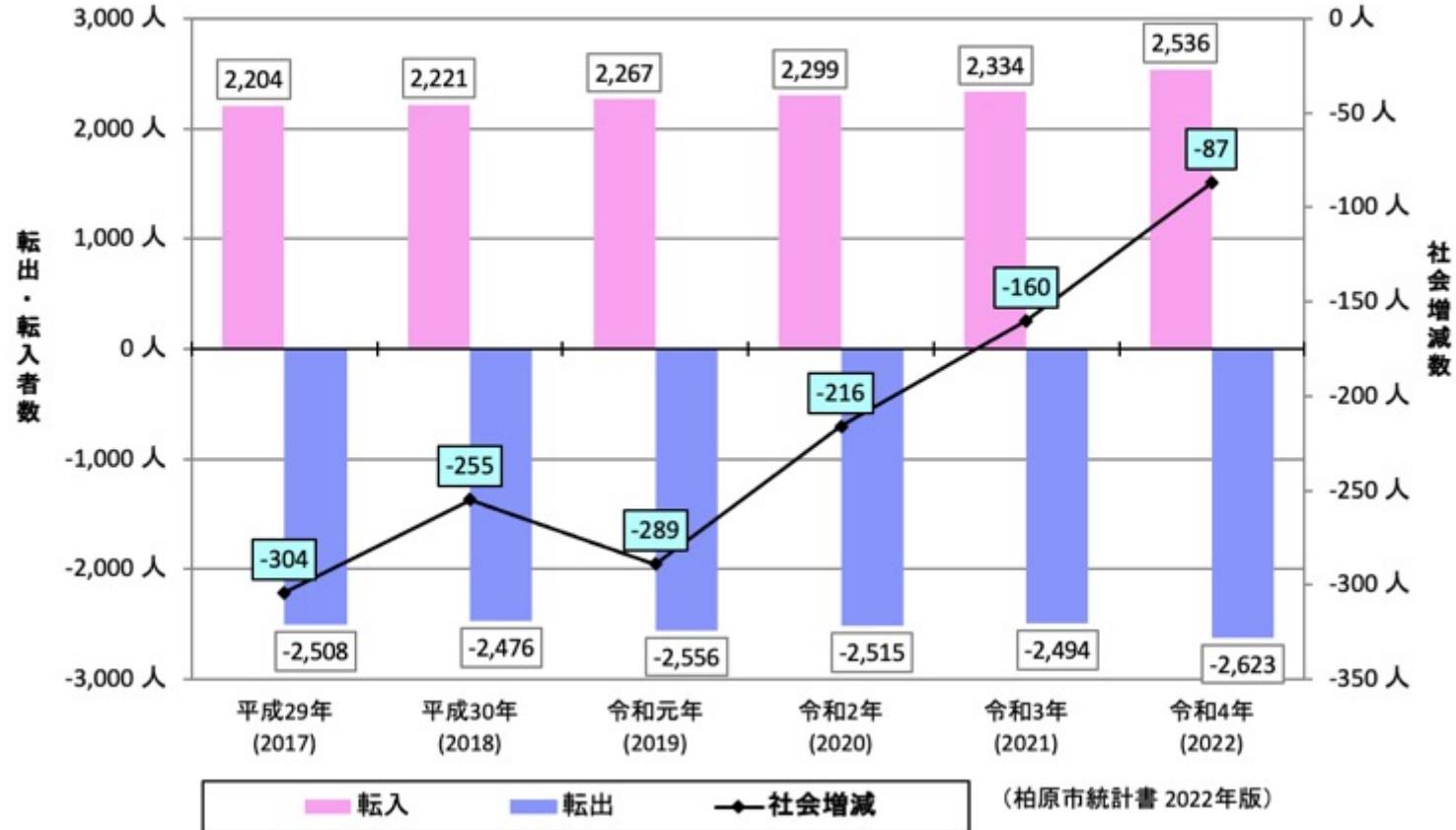
デジタル田園都市国家構想を踏まえた柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

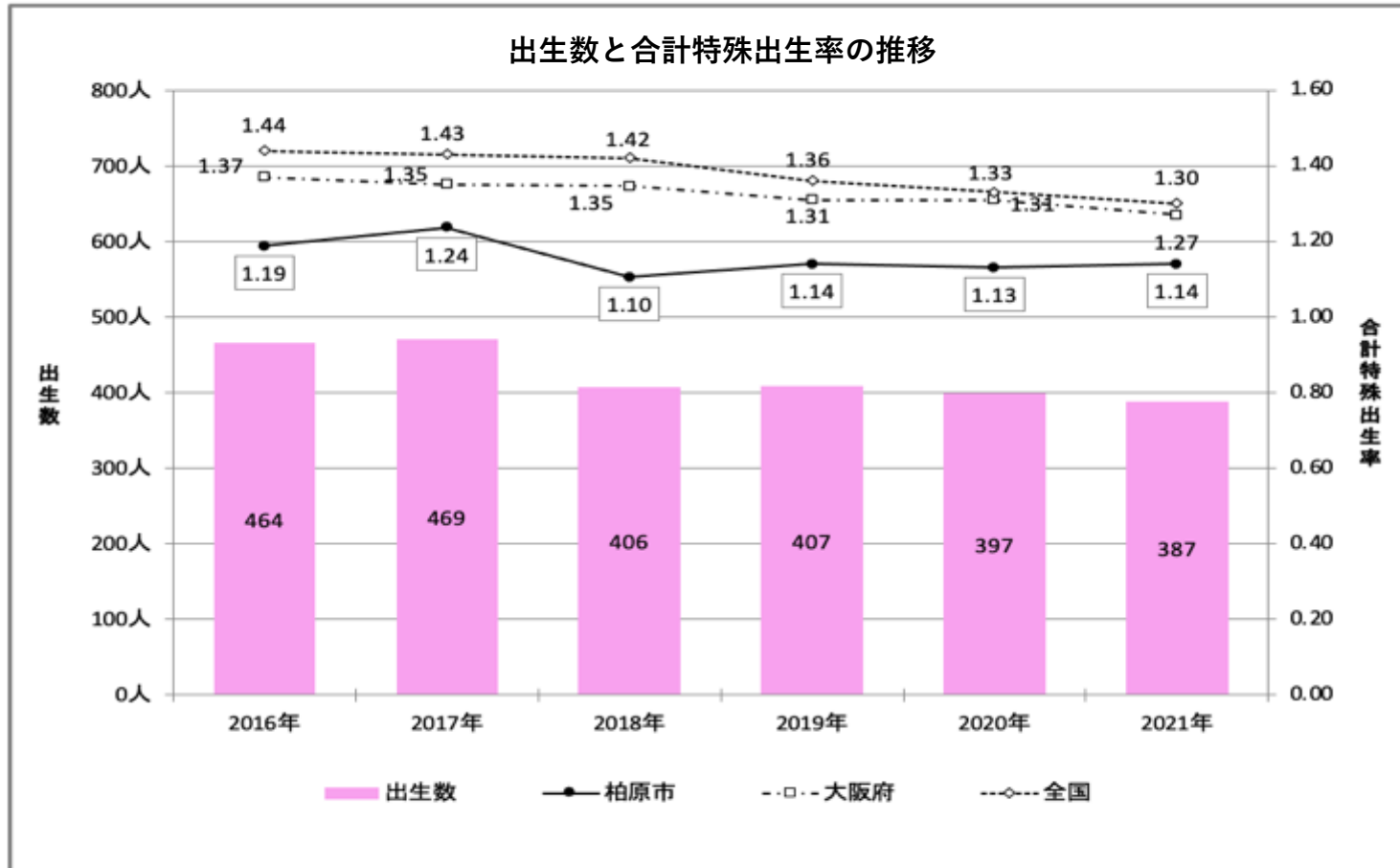


デジタル田園都市国家構想を踏まえた柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について



転入・転出者数の推移

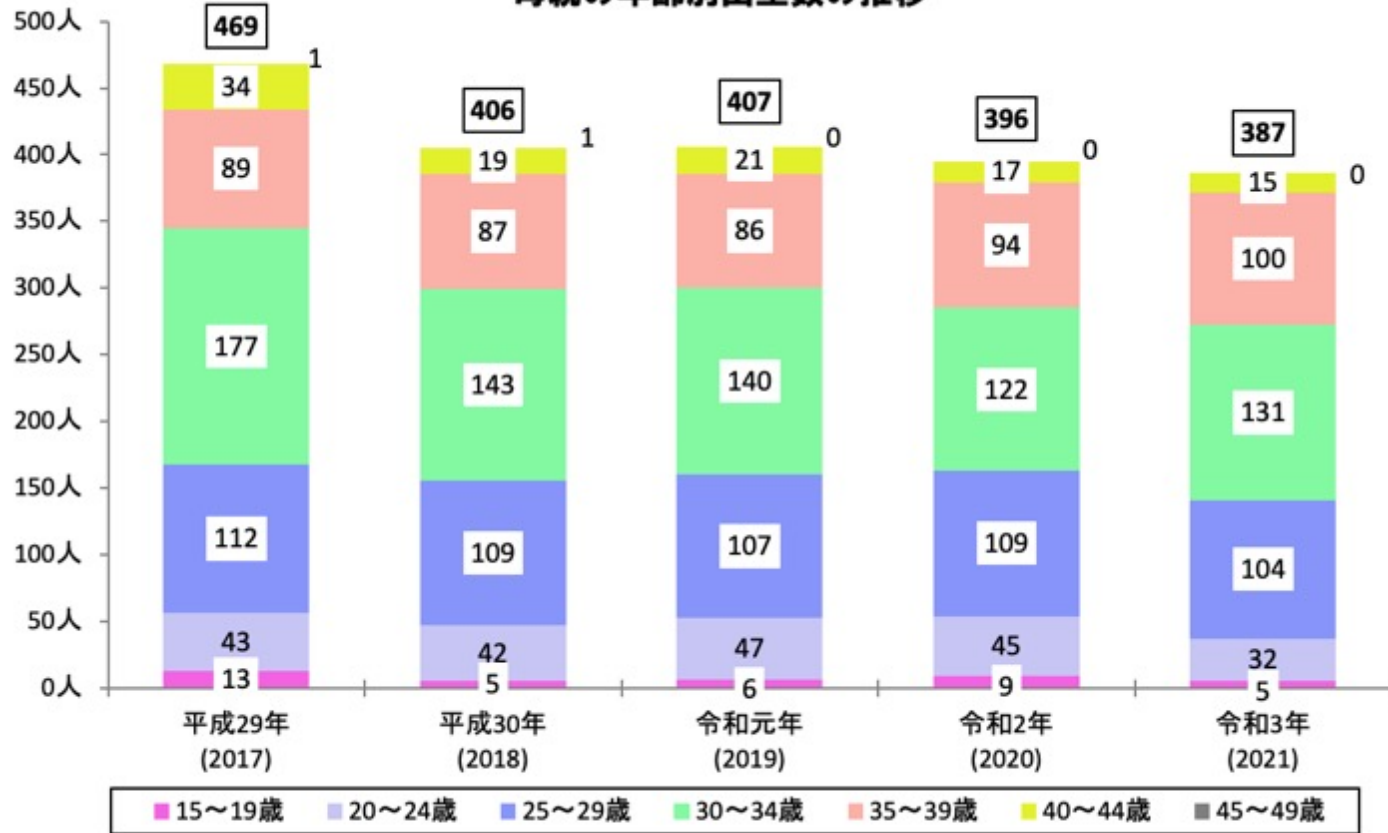




・2022年の全国の出生数は、過去最小の77万747人。

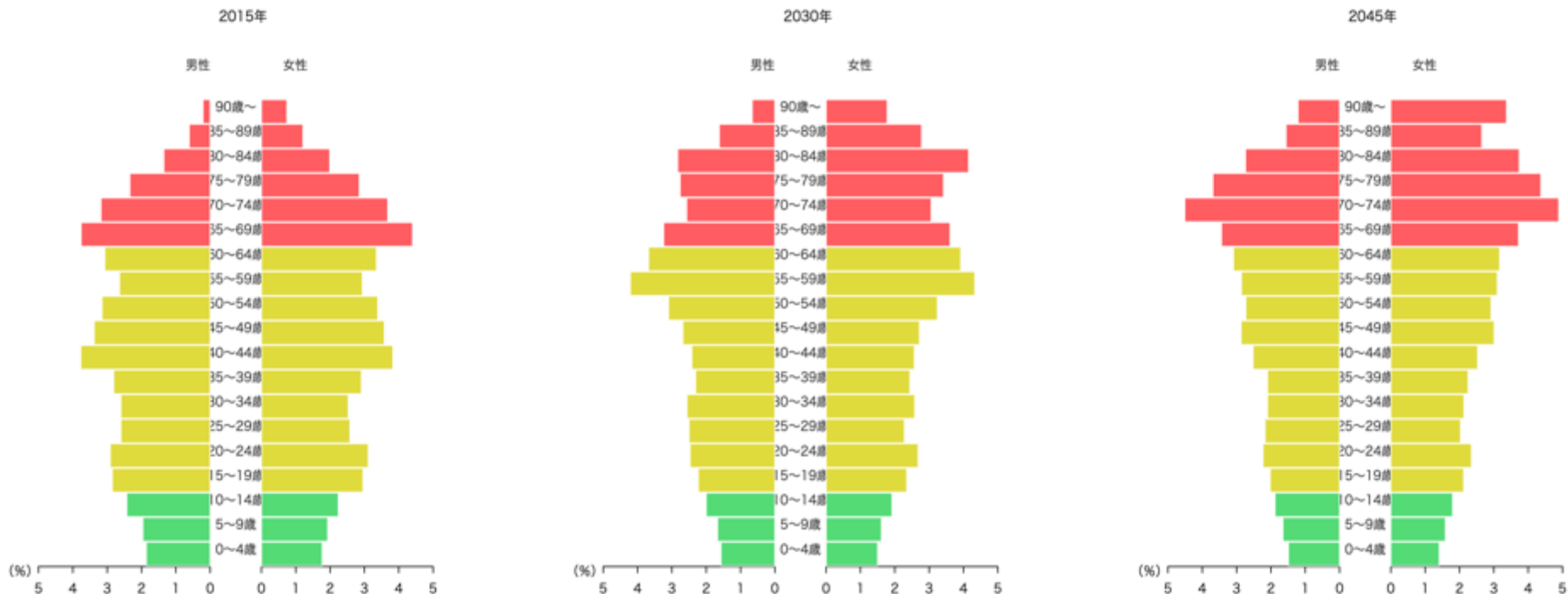
【参考】 合計特殊出生率・・・「15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」

母親の年齢別出生数の推移



(人口動態調査)

人口構造



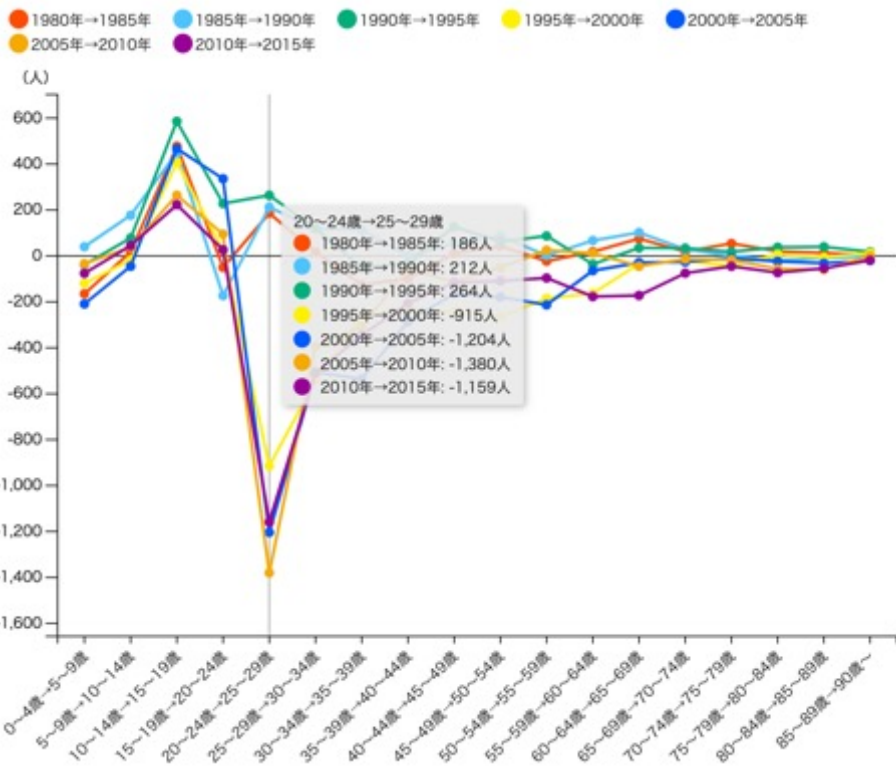
・2015年と2045年を比較すると、高齢者（75歳以上）の割合が大幅に増加する一方、生産年齢人口の割合は、大幅に減少する。

【出典】

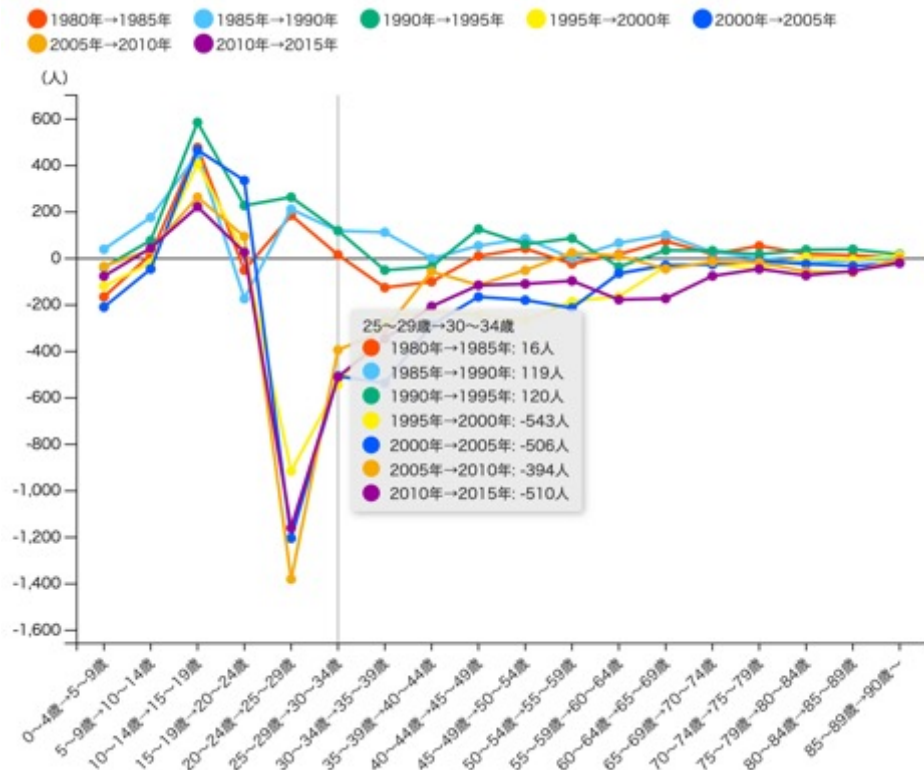
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

柏原市の年代別転出入状況

(20～24歳→25～29歳)



(25～29歳→30～34歳)

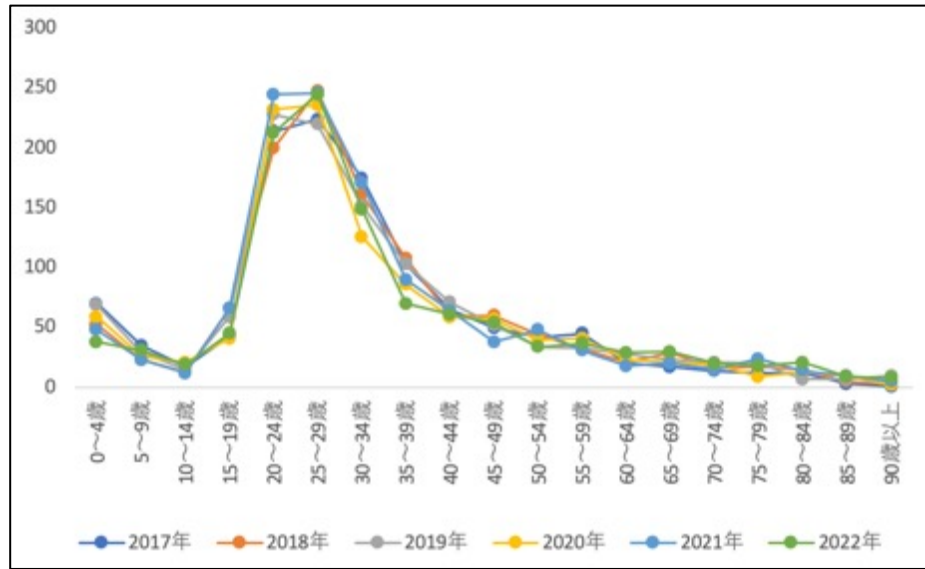


・2010年→2015年にかけて20～24歳→25～29歳・25～29歳→30～34歳の転出超過が多い。

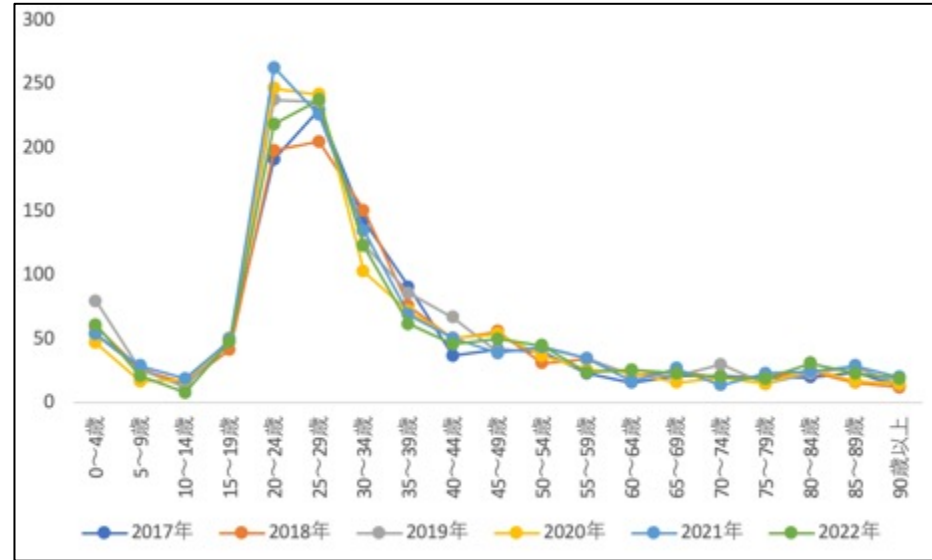
【出典】

総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

性別・年齢階級別の転出者移動



男性



女性

5-2 目指すべき将来像

総合戦略における目指すべき将来像は、「第5次柏原市総合計画」の基本構想に定める「2030年 まちの将来像」とします。

2030年 まちの将来像

選ばれるまち柏原

～ 豊かな自然 伝統ある産業 歴史・文化、教育

みんな笑顔で住みよい かしわら 柏笑 ～

3D都市モデルを活用した柏原駅東地区まちづくり基本構想策定について

柏原駅東地区まちづくり基本構想

柏原駅東地区を市の玄関口にみせたい、活気ある市街地となるように、駅前広場や都市計画道路の見直しなどを考慮したまちづくり基本構想を策定する

令和4年度 現況把握・課題整理

道路現況、土地利用、公共交通など地区の現状調査や地域住民の意向調査などから、地区の現状や課題を把握する。

令和5年度 まちづくりの方針の設定

都市機能、道路ネットワーク、立地誘導、バリアフリー、再開発方針など柏原駅東地区の将来のまちづくりの方向性を検討し、将来の目指す姿を設定する。



柏原駅東地区構想検討範囲

3D都市モデル

都市計画手続きのために作成している2D地図に、航空測量などによって得られた高さなどのデータを掛け合わせて、立体的な都市モデルを作成する。
これに、建物・土地利用の現況などの各種データを加えれば、人流や気候、交通などの高度なシミュレーションや分析が可能となる。



3D都市モデルイメージ

令和4年度 LOD1の作成

市域全域で箱型モデルのLOD1を作成する。



建物の箱型モデル



建物の屋根形状

令和5年度 LOD2の作成

柏原駅東地区の一部で建物の形状を表現したLOD2を作成する。



建物の外構(草)



建物の内部

DXの推進

3D都市モデルを活用した柏原駅東地区まちづくり基本構想（令和4年度創設：都市空間情報デジタル基盤構築事業）

まちづくり基本構想

資料収集整理

令和3年度に行った交通量調査結果などの資料を収集し、整理を行う。

現況把握・課題整理

道路現況、土地利用、公共交通などの現状把握から地区の課題を整理する。
なお、土地利用の現況把握にあたっては、3D都市モデルを活用する。

まちづくり基本構想の作成

都市機能、道路ネットワーク、土地利用など柏原駅東地区の将来の目指す姿の基本構想を作成する。
なお、整備後のイメージを3D都市モデルで作成する。

3D都市モデル

3D都市モデル（LOD1）の作成

航空写真成果（令和4年度）から市内全域でLOD1の作成を行う。

3D都市モデルの活用

3D都市モデルと土地利用現況や建物利用現況等を重ね合わせ、駅前の利用状況について解析を行う。

3D都市モデル（LOD2）の作成

柏原駅東地区の一部（建物100棟程度想定）でLOD2の作成を行う。

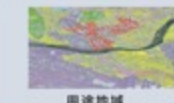
3D都市モデルのオープンデータ化

整備した3D都市モデル等をオープンデータとして公開する。

民間投資への促進に期待



土地利用現況と建物利用現況



用途地域



施設の完成イメージ

柏原駅東地区の具体的な整備が決定すれば、施設の完成イメージを重ね合わせ住民説明や広報に活用

他部門の3D都市モデル活用事例

●防災



浸水想定区域図の3D化

●景観



VRによる景観検討

●民間開発



ドローンのフライトシュミレーション

デジタル田園都市国家構想を踏まえた柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

オンライン健康教室 【健康】

- ・健康寿命の延伸
- ・地域コミュニティの活性化



スマホ教室 【高齢者福祉】

- ・デジタルデバインド対策



デジタル図書館 【教育】

- ・読書機械の拡充
- ・音声読み上げ等の読書困難者対策



バスロケーションシステム 【公共交通】

- ・利便性の向上

市内循環バスきらめき号の走行位置を確認できます

—柏原市地設情報システム（公開型 GIS）の導入について—

柏原市地設情報システム（公開型 GIS）を活用したバスロケーションシステムを導入しました。

パソコンやスマートフォンで、ウェブサイトや2次元コードから市内循環バスきらめき号1〜5号車までの走行位置情報を確認できますので、ぜひご利用ください。

柏原市地設情報システム（公開型 GIS）についてのご意見を募集しています。

お気づきの点などありましたら、問い合わせ先までご意見くださいませようお願いします。
▶募集期間 2月28日0時まで
▶問合せ 交通政策課 ☎072-971-2263
✉koutusetsu@city.kashiwara.lg.jp



登園管理システム 【子育て支援】

- ・職員の負担軽減



各種手続きのオンライン化 【市政運営】

- ・窓口サービス等の充実
- ・スマホアプリによる情報発信



デジタルの力を活用した社会課題の解決

選ばれるまち柏原

～豊かな自然 伝統ある産業 歴史・文化、教育みんな笑顔で住みよい 柏笑～

まちの将来像

■将来の方向性

- 出生率の向上と市外への転出抑制により人口減少に歯止めをかけ、人口規模の安定と人口の構造の改善を図ります。
- 地域の外から稼ぐ力を高めるとともに、地域内経済循環を図ります。
- 関係人口創出の取組により、まちづくりの担い手不足の改善を図ります。

■基本視点

- ①結婚、子育て、教育など子育て世代の支援
- ②若者を中心とした生産年齢人口の流出抑制
- ③地域資源を活用した地域活性化

基本方針

「親世代」から「子ども世代」、「孫世代」へとつなぐ、 三世代がよりそう まちづくり

～三世代の絆や家族の大切さを深め、柏原市に生まれて良かった、住み続けたいと思える暮らしを実現～

基本目標

基本目標 1

子育て環境ナンバーワンのまち かしわら

基本目標 2

働きやすいまち かしわら

基本目標 3

住んでみたい、住み続けたいまち かしわら

基本目標 4

暮らしやすいまち かしわら

デジタル田園都市国家構想を踏まえた柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

■ 計画期間・総合計画との整合性

計画期間

- ・2024（令和6）年度から2025（令和7）年度までの2年間とします。
- ※第5次柏原市総合計画の前期基本計画と同じ計画期間になります。



・総合戦略は、総合計画に掲げるまちづくり分野毎の取組みと総合戦略で定める政策プランの整合を図り、一体となって地方創生を推進することとしています。

・2025年の後期計画策定に際し、あらためて市の現状を分析し、改訂予定。

